

## はじめに

本冊子は、平成25年10月1日から平成27年度9月30日まで、建学史料室のプロジェクトとして実施された「近畿大学の大学アーカイブズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究（第1期）」の主要な成果を具体的にまとめたものである。

本プロジェクトの目的は、平成37年（2025年）の本学創立百周年に向け、校史関係史資料の保存・整理・活用の充実をはかるための基礎的な調査・研究をすることであった。また、現在進行中の東大阪キャンパス建て替え工事などに伴って貴重な史資料が失われないような気運を高めることへの貢献も、本プロジェクトに求められていたことの一つであったと考えられる。

こうした目的を達成するために、平成25年10月1日に建学史料室研究員の兼務発令を受けた教員10名が研究従事者となり、調査・研究協力者として参加した建学史料室所属職員とともに、学内外での校史関係史資料に関する調査や学外アーカイブズへの訪問調査などに取り組んできた。こうしたプロジェクトの経過は、建学史料室広報誌『A Way of Life -Seko Koichi-』第17号～第21号で報告し、学内研究会（講演会）も開催してきたが、調査した史資料の仮リストや講演録などを含む具体的な成果を整理・確認して本冊子にまとめ、全学にむけて詳細な成果報告をすることになった。

内容の構成は以下の通りである。

第1部「学内史資料現況調査」では、総務部（総務課および校友課）・広報部・学生部・中央図書館・九州地区（産業理工学部・九州短期大学・附属福岡高等学校）の協力を得て実施した学内の校史関係史料の現況調査の成果と課題をまとめた。今回の調査で確認した史資料のうち、とくに重要と思われる史資料の仮リストも掲載している。今回の現況調査は、時間的な制約のため、リスト化した史資料はほんの一部分に過ぎないが、例えばこのような史資料を保存・整理・活用することが創立百周年に向け、ますます重要になってくる、ということが学内に広く理解認識されることを心から願っている。

第2部「学外史資料所蔵調査」では、学外の諸機関に所蔵されている本学の校史関係史資料に関して実施した調査をまとめたものである。今回は所蔵調査を中心に実施し、収集作業の大部分は時間と費用の制約から今後の課題であるが、今後の本格的な収集作業の重要な手がかりが得られたと考えている。

第3部「学外訪問調査」は、立命館史資料センター準備室（平成27年10月、立命館史資料センターへ改称）、甲南学園学園史資料室、関西学院大学学院史編纂室を訪問して、これらのアーカイブズの担当者からアーカイブズの組織形態や史資料の収集・保存・活用などについて

て聞き取りをおこなった内容をまとめた。本学が今後、校史関係史資料の収集・保存・整理について進めていく上で参考になるものと思われる。

第4部「学内研究会」では、平成26年12月20日に立命館史資料センター準備室の奈良英久氏を招いて実施した学内研究会における奈良氏の講演記録を掲載した。校史編纂事業や本格的アーカイブズの開設準備についての実践的内容が、この講演記録によって全学的に共有されていくことを期待したい。

第5部「プロジェクトの記録」は、本プロジェクトの経過自体も校史の一部として残していく必要があると考え、勉強会の各回の記録などを収録した。

今後、百周年に向けて、全学的に校史関係史資料の収集・保存・整理が一層進展していく上で本冊子が活用されることを心から願っている。

本プロジェクトの調査・研究にご協力いただいた学外の文書館・図書館の皆様、立命館史資料センター・甲南学園学園史資料室・関西学院大学学院史編纂室の皆様にご心からお礼を申し上げます。また、ご理解・ご協力いただいた本学に関係するすべての皆様にも感謝を申し上げます。

校史関係史資料の調査と研究は今後も継続する。すでに平成27年10月からは研究プロジェクト「近畿大学の大学アーカイブズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究（第2期）」を開始している。引き続きご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、巻末に特別編として「近畿大学の前身校である日本大学専門学校の設立の経緯に関する実証的考察」（名誉教授・建学史料室研究員荒木康彦）を、研究プロジェクト第2期成果の速報として掲載した。

研究代表者（副学長・経営学部教授・建学史料室研究員）

増田 大三